

# AI関連発明の進歩性と記載要件

Nov. 20, 2019

Korean Intellectual Property Office



Korean Intellectual  
Property Office

# 目次

1. 進歩性

2. 事例

3. 記載要件

4. 事例

# 進歩性

## ✓ 審査基準

### 進歩性を判断するために考慮する事項

- 先行技術からの相違点（動機付け、通常の創作能力の発揮、有利な効果など）にもかかわらず、請求項に係る発明に容易に辿り着くことができるかどうか
- 特定の情報処理であって、ある特定の問題を解決するための学習済みモデルに基づいて得られるものが、明示されているかどうか
- 先行技術又は周知技術がAI技術を用いて簡単に実装されたものであるかどうか
- AI技術のある特定の手段（教師データとAIモデル）に違いがあり、その違いが先行技術よりも有利な効果をもたらすものであるかどうか

# 事例

## [請求項1]

情報処理装置によりニューラルネットワークを実現するダムの水力発電量推定システムであって、  
入力層と出力層とを備える～ニューラルネットワークと、  
前記入力データ及び前記出力データの実績値を教師データとして前記ニューラルネットワークを  
学習させる機械学習部と、  
前記機械学習部にて学習させたニューラルネットワークに現在時刻を基準時刻として前記入力  
データを入力し、現在時刻が基準時刻である出力データに基づいて未来の水力発電量の推定値  
を求める推定部と、  
により構成されたことを特徴とする水力発電量推定システム。

- ➡ 請求項1の特許発明の対象 ➡ 推定システム
- ➡ ニューラルネットワーク ➡ 先行技術又は公知技術
- ➡ 進歩性の欠如

## 【請求項2】

請求項1に係る水力発電量推定システムであって、  
前記入力層の入力データに、さらに、前記基準時刻より過去の時刻  
から当該基準時刻までの所定期間の上流域の気温を含むこと、  
を特徴とする水力発電量推定システム。

➡ (進歩性)この段階ではどちらともいえない



# 記載要件-実施可能要件-

## ✓ 関連する条文

特許法第42条第3項

第2項による発明の説明は、次の各号の要件を全て満たさなければならない。

1号: その発明が属する技術分野で通常の知識を有した者が**その発明を容易に実施することができるように明確かつ詳細に記載すること**

## ✓ 審査基準

実施可能要件違反の例

- 発明の説明において請求項に関する発明に対応する技術的段階又は機能を抽象的に記載しているだけで、**その段階又は機能をハードウェア若しくはソフトウェアでどのように実行又は実現するか記載しなかった結果、請求項に関する発明を実施することができない場合**

# 記載要件-サポート要件-

## ✓ 関連する条文

特許法第42条

第4項第1号: 請求項は**発明の詳細な説明によって裏付けられなければならない。**

## ✓ 審査基準

サポート要件違反の例

- 請求項によって、特許発明の対象とされる又は限定されるものが、発明の詳細な説明に**開示も示唆もされていない場合**
- 請求項が特定の機能を実行するための方法又はステップを列挙しているが、**その特定の  
方法又はステップと一致する特定の構成が**、発明の詳細な説明に**開示されていない場合**
- 出願時の通常の技術水準に基づいても、発明の詳細な説明における開示が、**請求項に  
係る発明の範囲まで一般化又は拡張することができない場合**

## [発明の詳細な説明]

➡ 明細書が「教師データの内容の必要性、学習方法、学習済みモデル(アルゴリズムパラメータ)と学習済みモデルの予測精度」の各々の項目を、可能な限り、正確且つ明示的に記述し、請求項が前述のうちの1つかそれ以上の項目を具体化する場合には、韓国特許法第42条第3項第1号において定義される実施可能要件が満たされる。

➡ したがって、事例2は、韓国特許法第42条第3項第1号において定義される実施可能要件を満たすと考えられる。



*Thank you*



Korean Intellectual  
Property Office